

令和元年度事業報告書

学校法人 二松学舎

目 次

I	法人の概要	1
II	事業の概要	5
III	財務の概要	19
	監査報告書	27

I. 法人の概要

1. 基本情報

(1) 法人の名称 学校法人二松学舎

(2) 主たる事務所の所在地等

東京都千代田区三番町6番地16

電話 03-3261-7407 FAX 03-3261-1291

ホームページ <https://www.nishogakusha-u.ac.jp/>

(3) 建学の精神

「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成ス」

自ら考え行動できる能力を鍛え、社会のために貢献する人物を養成する

(4) 沿革

二松学舎は、明治 10 年に先師中洲三島毅により「漢学塾二松学舎」として創設され、建学の精神「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成ス」により東洋学の確立と新時代を担う国家有為の人材の育成を目指した。その後、昭和 3 年には旧制専門学校となり、国語・漢文の教員養成に注力し、「国漢の二松学舎」として東洋の精神文化を基盤とし、人間教育の実践に努めてきた。戦後復興期、昭和 24 年に新制大学に移行、文学部国文学科・中国文学科の単科大学として伝統を堅持し発展、さらに平成 3 年に国際政治経済学部を開設した。一方、昭和 23 年に二松学舎大学附属高等学校が、昭和 44 年に二松学舎大学附属沼南高等学校(現附属柏高等学校)が設置され、平成 23 年 4 月、附属沼南高等学校は附属柏高等学校に校名を変更し、新たに二松学舎大学附属柏中学校を開校した。平成 24 年 10 月に創立 135 周年を迎え、これを機に、二松学舎のあるべき将来像を定めた「長期ビジョン(N'2020 Plan)」を公表し、これに基づく行動計画である「アクションプラン」を計画し、平成 25 年度より推進している。さらに、二松学舎創立 140 周年を機に新長期ビジョン「N'2030 Plan」を策定し 2030 年に向けた本法人全体の指針として公表した。現在、設置する学校と学部・学科等の概要は以下のとおりである。

2. 設置する学校・学部・学科等

(1) 二松学舎大学

大学院

文学研究科

国際政治経済学研究科

文学部

国文学科

中国文学科

都市文化デザイン学科

国際政治経済学部

国際政治経済学科

国際経営学科

(2) 二松学舎大学附属高等学校

(3) 二松学舎大学附属柏高等学校

(4) 二松学舎大学附属柏中学校

3. 入学定員・学生数等の状況

<大学院> (単位:人)

研究科	博士前期課程(修士課程)				博士後期課程(博士課程)			
	入学定員	入学者数	収容定員	現員数	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
文学研究科	32	17	64	39	10	8	30	23
国際政治経済学研究科	10	9	20	15				
合計	42	26	84	54	10	8	30	23

<学部> (単位:人)

学部	学科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
文学部	国文学科	300	310	1,120	1,278
	中国文学科	90	125	410	500
	都市文化デザイン学科	50	54	150	166
	計	440	489	1,680	1,944
国際政治経済学部	国際政治経済学科	160	182	720	857
	国際経営学科	80	87	160	185
	計	240	269	880	1,042
合計		680	758	2,560	2,986

<中学校・高等学校> (単位:人)

学校名	学科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
二松学舎大学附属高等学校	全日制普通科	300	240	900	903
二松学舎大学附属柏高等学校	全日制普通科	280	375	840	1,022
二松学舎大学附属柏中学校	全日制普通科	102	60	306	187
合計		682	675	2,046	2,112

(注)人数は令和元年5月1日現在の値を示す。

4. 役員等・教職員の概要

(1) 役員等・教職員数

- ① 役員等 理事 11人 (うち、理事長1人、常任理事3人)
 監事 2人
 評議員 24人 (理事を含む)

② 教職員 (単位:人)

教員	二松学舎大学	79
	二松学舎大学附属高等学校	40
	二松学舎大学附属柏高等学校	46
	二松学舎大学附属柏中学校	17
	計	182
職員	二松学舎大学	74
	二松学舎大学附属高等学校	7
	二松学舎大学附属柏高等学校	5
	二松学舎大学附属柏中学校	
	計	86

(注) 役員の数人は令和元年9月2日、教職員の人数は令和元年5月1日現在の値を示す。

表中の教員には非常勤教員を含まない。非常勤教員の人数は、二松学舎大学 204人、二松学舎大学附属高等学校 25人、二松学舎大学附属柏高等学校 29人、二松学舎大学附属柏中学校 3人である。

(2) 役員

役 職	氏 名
理 事 長	水 戸 英 則
常 任 理 事	五 十 嵐 清
常 任 理 事	西 畑 一 哉
常 任 理 事	江 藤 茂 博
理 事	本 城 学
理 事	芝 田 周 一
理 事	中 山 政 義
理 事	牧 角 悦 子
理 事	小 町 邦 明
理 事	武 山 芳 夫
理 事	大 槻 奈 那
監 事	橋 本 泰 久
監 事	根 本 義 尚

(注)令和元年9月2日現在

(3) 評議員

氏 名	
江 藤 茂 博	五 十 嵐 清
本 城 学	齊 藤 定 市
芝 田 周 一	高 柳 幸 雄
中 山 政 義	小 町 邦 明
牧 角 悦 子	七 五 三 和 男
島 田 達 彦	水 戸 英 則
飛 田 正 太 郎	篠 辺 修
真 瀬 垣 成 隆	武 山 芳 夫
山 口 直 孝	西 畑 一 哉
西 園 隆 士	渋 澤 健
志 村 孝	野 島 透
家 永 修	大 槻 奈 那

(4) 大学・両附属高等学校の主要役職者

役 職	氏 名
二松学舎大学	
学 長	江 藤 茂 博
副学長	福 島 一 浩
副学長	中 山 政 義
大学院文学研究科長	牧 角 悦 子
大学院国際政治経済学研究科長	中 山 政 義
文学部長	牧 角 悦 子
国際政治経済学部長	中 山 政 義
附属図書館長	押 野 洋
東アジア学術総合研究所長	山 口 直 孝
国際交流センター長	王 宝 平
教職課程センター長	田 村 幸 子
キャリアセンター長	佐 藤 晋
学務局長	瀧 田 浩
二松学舎大学附属高等学校	
校 長	本 城 学
副校長兼教頭	真 瀬 垣 成 隆
二松学舎大学附属柏高等学校	
校 長	芝 田 周 一
副校長兼教頭	七 五 三 和 男
二松学舎大学附属柏中学校	
校 長	芝 田 周 一
副校長兼教頭	島 田 達 彦

(注)令和元年5月1日現在

(5) 事務組織の主要役職者

役 職	氏 名
二松学舎大学	
事務局長	小 町 邦 明
総務・人事部長	志 村 孝
企画・財務部長	西 畑 一 哉
大学改革推進部長	飛 田 正 太 郎
教学事務部長	西 園 隆 士
附属図書館事務部長	高 柳 幸 雄
キャリアセンター事務部長	逆 井 勇
柏事務部長	菅 原 義 博
附属高等学校	
事務長	大 淵 俊 明
附属柏中学・高等学校	
事務長	菅 原 義 博

(注) 令和元年5月1日現在

5. 最近の入学数、在籍者数、納付金、教職員数の状況

(1) 入学数

(単位:人)

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
大 学	大学院	14	18	21	30	34
	学部	697	730	728	783	758
附属高等学校		251	249	233	453	240
附属柏高等学校		358	314	291	372	375
附属柏中学校		43	43	55	75	60
計		1,363	1,354	1,328	1,713	1,467

(2) 在籍者数

(単位:人)

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
大 学	大学院	43	44	52	56	77
	学部	2,826	2,830	2,866	2,963	2,986
附属高等学校		745	755	721	924	903
附属柏高等学校		997	1,004	944	960	1,022
附属柏中学校		162	141	137	171	187
計		4,773	4,774	4,720	5,074	5,175

(3) 1人当たり学生生徒等納付金(令和元年度)

(単位:千円)

			入学金	授業料	施設費等	計
大 学	大学院	前期・修士	250	520	100	870
		後期・博士	250	520	70	840
	学部	280	746	250	1,276	
附属高等学校			220	372	208	800
附属柏高等学校			150	300	330	780
附属柏中学校			200	348	330	878

(4) 本務教職員数

(単位:人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
大学教員	74	73	76	77	79
高等学校教員	76	81	83	83	86
中学校教員	15	14	15	15	17
事務職員	92	99	94	93	86
計	257	267	268	268	268

(注)各年度 5月1日現在

教職員数は、①学生数に対応する基本的な教職員数の維持、②大学院の教育・研究のための適正人員の確保、③教育・研究支援体制の充実を視野に入れた適正人員の確保、④専任職員と補助職員の業務内容などの雇用制度等を基に決定している。

II. 事業の概要

1. 法人(理事会・評議員会など法人事項に係る管理運営)

(1) 新長期ビジョン「N'2030 Plan」による改革の推進

二松学舎創立 135 周年を機に定めた「長期ビジョン(N'2020 Plan)」の基本方針を引き継ぎ、私学を取り巻く環境の激変に対応するため、役員、教職員、学生・生徒、父母、取引先などステークホルダーの意見を基に 2030 年に向けた本法人の進むべき指針である「新長期ビジョン(N'2030 Plan)」が、創立 140 周年(平成 29 年 10 月 10 日)で新たに策定・公表された。2019(令和元)年度では、この「新長期ビジョン(N'2030Plan)」の実行計画である「2019 年度全学アクションプラン」に基づき、次のような改革課題について、全学一丸となった取り組みが行われた。

◆2019 年度全学アクションプランの主な課題

- ①建学の精神と二松学舎憲章
- ②大学・大学院の教育改革(21 世紀型教育体制の構築、次世代型新カリキュラムの編成、開講科目数の適正化、教育・研究環境整備、教学ガバナンスの確立、FD 活動の見直し・体系化、第 3 期認証評価への対応、自校教育の導入・充実、アセスメントポリシーの策定と成績評価制度の見直し、学生満足度の向上、グローバル化の推進、体系的キャリア教育の導入・実施、教職採用者数の維持、産学連携の推進、地域社会との連携強化、研究内容のレベル維持、研究科組織の見直し・改編、科研費採択件数の向上、漱石アンドロイド学術研究の推進、奨学金制度の見直し、課外活動充実策の抜本的見直し、就職率の向上・維持、学生情報(教育成果)の管理・活用推進、外国人留学生在籍者数の安定的確保・増員、新入試制度への対応、退学率の低減、九段キャンパスの整備・拡充、柏キャンパスの整備・維持、附属図書館(九段・柏)の蔵書精査、その他)
- ③附属高校の教育改革(自校教育の推進、新大学入試制度への対応、難関大学への進学実績向上、生徒平均学力の向上、二松学舎大学への安定的入学者数の維持、生徒募集力の強化、生徒・保護者満足度の向上、教育環境の整備・拡充、その他)
- ④附属柏中学校・高等学校の教育改革(自校教育の推進、新大学入試制度への対応、難関大学への進学実績向上、生徒平均学力の向上、二松学舎大学への安定的進学者数の維持、生徒募集力の強化、生徒・保護者満足度の向上、教育環境の整備・拡充、その他)
- ⑤財務、人材育成、評価、組織、広報、その他(KPI 目標数値の達成、強固な財務基盤の維持・向上、奨学金制度の拡充、収入源の多様化と安定的収入の確保、寄附金収入の安定的確保、事業会社活動の強化・拡充、財政基盤の維持、二松学舎 SD 計画の推進、人事計画の見直し、人事評価制度の改善、働き方改革、法人ガバナンスの検証・改善、知名度の向上、業務の効率化、既存施設の維持・改善、BCP(事業継続計画)プランの策定、卒業生ネットワークの強化、その他)

(2)「二松学舎 KPI ダッシュボードシステム」の運用と改善

長期ビジョンの新たな進捗管理ツールとして「二松学舎 KPI ダッシュボードシステム」を開発し、運用を開始した。このシステムは、本学の運営に関係する様々な指標・データの内、特に重要と思われる指標・データ=KPI(Key Performance Indicator=重要業績評価指標の頭文字を取ったもの)を視覚的に一覧化、PC上で各指標の推移や現状を把握できるものとなっている。2019(令和元)年度から、各種 KPI 数値に基づき、理事会、全学アクションプラン推進管理委員会等で現状及びベンチマーク校との差異に関する分析結果を報告した。また、実際の運用を通じて、KPI の合成指標の見直しも行った。

(3)施設設備の整備

大学では九段校舎 1 号館 2 階・4 階トイレ改修工事、教室電子黒板の入替え、ラーニング・コモンズ貸出用タブレット端末の新規導入、柏校舎 1 号館屋内消火栓ポンプユニット交換、5 号館(大学資料センター)の空調工事、グラウンドの改修整備、駐車場舗装工事などを実施した。附属高校では学籍管理システムのリプレイス、調理室の改修整備などを実施し、附属柏中学・高校では西校舎図書室(ラーニングコモンズ)及びエントランスの改修整備、中庭のブロック舗装工事、東校舎の補修工事などの環境整備を行った。

(4)被災学生への支援等

大学において、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故に伴う被災特別奨学生に対する学納金の減免措置を引き続き実施した。

(5)イベント

①シンポジウム「アンドロイドに魂は宿るか? 漱石アンドロイドをめぐる3つの視点」(11月9日)

主催:二松学舎大学大学院文学研究科/大阪大学大学院基礎工学研究科 共催

【オープニング・アクトの部】

[モノログ作品タイトル]Variable Reality(ヴァリアブル・リアリティー) 一虚構は可変現実

[モノログ作品概要]吾輩のこころの明暗と『贋作』の夢十一夜、それから思い出す事など

【トーク・セッションの部】13:10~17:30 ※途中、休憩あり

マエセツ&マエフリ

文豪模型に「だが断る」とか言われる日 島田 泰子

プレゼンテーション1

「中の人」と「生きてるみ」一人形論から見た漱石アンドロイド 菊地 浩平

プレゼンテーション2

写真論から見たアンドロイドの顔の問題 大山 顕

プレゼンテーション3

脚本から考える歴史的人物の虚構化で描く現実 佐藤 大

総合ディスカッション

佐藤 大×大山 顕×菊地 浩平×小山 虎×夏目 房之介×足立元×島田 泰子

②「漱石アンドロイド」プロジェクト

株式会社羽二重団子本店(5月18日) 自己紹介、『吾輩は猫である』朗読等

松苓会東京支部・千葉県支部・神奈川県支部合同講演会(7月27日)『夢十夜』「第三話」朗読等
九段 1 号館中洲記念講堂

本学オープンキャンパス特別企画(8月18日) 特別講演会

附属柏中学校、附属柏高等学校受験生対象説明会(8月24日) 挨拶、『坊っちゃん』朗読等

埼玉県深谷市「渋沢栄一アンドロイド制作発表会」への臨席、挨拶(10月3日)

附属柏中学校創立 10 周年・柏高等学校創立 50 周年記念式典・懇親会(10月10日)

祝辞 柏市 ザ・クレストホテル柏 2 階宴会場

富山大学での講演活動(10月31日)

挨拶、『こころ』朗読等 富山大学五福キャンパス 人間発達科学部第三棟 332 教室

「ビジネス・サミット 2019」(11月1日) トークショーへの参加、『草枕』冒頭の朗読等

富山市南総合公園体育文化センター

国際交流イベント留学フェア(11月3日) 英語によるスピーチを実施、九段1号館1103会議室
漱石アンドロイドシンポジウム「アンドロイドに魂は宿るか? 漱石アンドロイドをめぐる3つの視点」

(11月9日) 登壇者との講演、ディスカッション 九段1号館中洲記念講堂

日本近代文学会、昭和文学会、日本社会文学会 合同国際研究集会(11月24日)

デモンストレーション 九段1号館中洲記念講堂

テレビ、新聞など報道・取材への対応

TBS『世界ふしぎ発見!』への出演(10月26日放送)

③『論語』の学校 - RONGO ACADEMIA - (12月14日)

会場:九段校舎1号館中洲記念講堂 参加者:340人

『論語』入門 文学部教授 牧角悦子

『論語』を規範とした渋沢栄一の事業経営哲学

公益財団法人渋沢栄一記念財団 業務執行理事・事業部長、渋沢史料館館長 井上潤氏

「地下から出た『論語』—出土資料から『論語』の原型を探る—」文学部准教授 戸内俊介

素読実践 顧問・名誉教授 石川忠久

④公開講座等

■柏キャンパス 生涯学習講座

○春semester(5月7日~7月26日)

日本漢詩をよむ — 京都などの名勝旧跡の詩 — 吉崎一衛

漢詩をよむ — シルクロードの詩 — 吉崎一衛

万葉第二期の歌人と作品 — 古代人のことばと世界観 — 青柳まや

唐代の名詩鑑賞 I 大地武雄

王維の名詩鑑賞 大地武雄

折帖に『鳥獣人物戯画』を書く — 各自で折帖を作る — 今川多佳子

漢文講読講座 — 漢・楚の激突 — 録田勲

初級英会話 — LET'S ENJOY ENGLISH — 岡田リアン

日常生活と食事 — 栄養素を理解し、食生活を豊かに — 上原淳子

韓国語で読む日本の昔話(初・中級) — 知っている物語を韓国語でよんでみよう — 秋賢淑

シルクロードの光彩 — 東洋と西洋の文化交流の光と影 — 山田勝久

古代に於ける大陸と日本の交流史 — 渡来人や遣隋・遣唐使について — 山田勝久

万葉第二期の歌人と作品 — 古代人のことばと世界観 — 原 國人

漢詩を書く — 様々な形式で書いてみましょう — 伊藤忠綱

転換期の人間像 — 森鷗外の歴史小説を読む — 原 國人

初級中国語 — 「私の日曜日」を中国語で紹介してみよう — 武永尚子

江戸に学ぶ I — 江戸幕府に仕えた女性の生き方 — 松尾政司

江戸に学ぶ II — 北方領土をめぐる日露の闘ぎあいを見る — 松尾政司

故事成語を学ぶ — 「か」行から始まる言葉から — 録田勲

インドの社会と文化 — 多文化・他民族社会インドの魅力 — 宮崎智絵

文学散歩 ~漱石・芥川・太宰~ 山崎 哲

篆書を作品に生かそう I — 小篆とその周辺 — 寺内 進

ドイツ・ポピュラー音楽史紹介 — クラシックではなくポピュラー音楽 — 押野 洋

古文書入門 — 江戸の古文書を学ぶ — 寺内 進

今の子どもについての理解の試み — 現代の教育課題と対応策を考える — 松葉幸男

芝居劇場(しばみごや)『桃源座』祝門出新時代寿興業 白井雅彦

韓国社会と映像文化 田村紀之

20世紀シネマ『楽園館』 — 永遠の妖精オーディリー・ヘップバーン生誕90年祭 — 白井雅彦

昭和外交秘録 I — 昭和天皇実録による外交の実像 — 佐藤晋

○秋semester(9月20日~1月10日) 30講座 全5回

万葉第二期の歌人と作品Ⅱ 青柳まや
 日本漢詩をよむ 吉崎一衛
 漢詩をよむ 吉崎一衛
 唐代の名詩鑑賞Ⅱ 大地武雄
 韋応物の名詩鑑賞 大地武雄
 漢文講読講座 録田 勲
 初級英会話Ⅱ 岡田リアン
 日常生活と食事 上原淳子
 奉書巻紙に「古今和歌集」を書く 今川多佳子
 韓国語で読む日本の昔話Ⅱ 秋 賢淑
 シルクロードの夢とロマンを学ぶ 山田勝久
 渡来人の日本での生活を考える 山田勝久
 江戸に学ぶⅠ 松尾 政司
 初級中国語Ⅱ 武永尚子
 篆刻の周辺 伊藤忠綱
 転換期の間人像Ⅱ 原 國人
 男と女Ⅱ 原 國人
 江戸に学ぶⅡ 松尾 政司
 故事成語を学ぶ 録田 勲
 今の子どもについての理解の試みⅡ 松葉幸男
 インドの歴史と文化を学ぶ 宮崎智絵
 文学散歩 ～漱石・芥川・太宰～ 山崎 哲
 篆書を作品に生かそうⅡ 寺内 進
 ドイツ・ポピュラー音楽紹介Ⅱ 押野 洋
 古文書入門Ⅱ 寺内 進
 20世紀シネマ『楽園館』 白井雅彦
 芝居劇場(しばるごや) 白井雅彦
 昭和外交秘録Ⅱ 佐藤晋

2. 大学(学部・大学院)

(1) 教育・研究の推進

①次世代型カリキュラムの検討

近年の主な中央教育審議会答申で提言されている高等教育改革の視点を網羅し、現行カリキュラムの質を維持しつつ授業科目の精選・整理を行うとともに、教育の質的転換をさらに推進し、本学の建学の理念に基づく有意な人材の育成を可能とするカリキュラムとなるよう、新カリキュラムの編成に向けた基本方針(骨子)を策定した。

- ・ 新カリキュラムは「2022年度」に導入する。
- ・ 教養教育には、「知識・スキル・人間性」を三位一体で涵養するための科目を配置する。
- ・ 学生が所属する学科・専攻に関わらず、大学全体としてN' 2030Planで定めた「養成する人材像」を具現化するため、現在の初年次教育を強化し、「全学共通科目」を設ける。また、各学部、各学科における必要最低限の共通知識を身に付けさせるための「学部共通科目」「学科共通科目」を設ける。
- ・ 多専攻制の導入に伴い肥大化した開講科目のスリム化を図る。
- ・ 中等教育課程から高等教育課程への接続、キャリア教育を意識して、「アクティブラーニング」「ICT教育」「数理・データ教育」「少人数&習熟度別語学教育」「キャリア教育」「1年次基礎ゼミール」「2年次のゼミナール」に係る科目を体系的に取り入れる。
- ・ 新カリキュラム編成の検討に当たって、社会的ニーズや今後のトレンドを適切に新カリキュラムに反映させるため、外部コンサルティング会社の助言・提言を取り入れる。

- ・ 学部学科改編企画会議で大方針を定め、新カリキュラムの詳細は、学長の下に教職協働の「ワーキング・グループ」を設置して検討する。

②東アジア学術総合研究所

文部科学省平成 27 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された本学の研究プロジェクト『近代日本の「知」の形成と漢学』（以下 SRF と略記）が、事業としての最終年度を迎えた。

〔期間〕平成 27 年度～平成 31 年度(5 年間)

〔内容〕日本の近代化が進行した 19 世紀～20 世紀前半、「漢学」(漢文による学び) が学術と教学に解体・再編される過程において、「漢文」による研究と教育を通して、近代日本がどのような「知」を形成し、それによってどのような人間形成・社会秩序形成をしたかを実証する。

平成 16 年度に採択された 21 世紀 COE プログラムは平成 21 年 3 月に 5 年間の研究支援期間の後、東アジア学術総合研究所日本漢学研究センターが引き続き COE の事業を推進しており、これまで、漢文文献資料の調査・収集とデータベース化、情報公開、国際シンポジウムや海外研究者の招聘による講演会・公開講座・講習会の開催など、広範で活発な研究教育活動を行い、人材育成にも力を注いでいる。また、ヨーロッパで日本漢文の講座を展開するほか、動画配信による講義も行っている。

■文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業『近代日本の「知」の形成と漢学』

<シンポジウム>

二松学舎大学人文学会・SRF 共催講演会・シンポジウム(7 月 13 日・14 日)

レオン・ド・ロニーと 19 世紀欧州東洋学

会場:第 1 日 講演会 二松学舎大学九段キャンパス 1 号館 2 階 201 教室

第 2 日 シンポジウム 二松学舎大学九段キャンパス 4 号館 6 階 4061 教室

二松学舎大学 SRF・山田方谷の軌跡(～奇跡～)実行委員会共催第 3 回漢学者記念館会議(8 月 3 日)

会場:第 1 部 二松学舎大学九段キャンパス 1 号館 2 階 202 教室

第 2 部 二松学舎大学九段キャンパス 1 号館 12 階 役員会議室

二松学舎大学 SRF シンポジウム(12 月 1 日)

枕山と荷風 一江戸の漢文学は近代に何をもたらしたのか一

会場:九段キャンパス 4 号館 6 階 4061 教室

二松学舎大学 SRF 主催・渋沢栄一記念館協力・倉敷市後援シンポジウム(1 月 12 日)

地域振興と漢学 一山田方谷・三島中洲・渋沢栄一

会場:倉敷市倉敷公民館 第 2 会議室

<セミナー>

二松学舎大学 SRF・浙江工商大学東方語言文化学院・浙江工商大学東亜研究院共同開催

「日本漢学」上級セミナー(8 月 19 日～8 月 25 日)

会場:中原工学院

<テーブルスピーチ>

二松学舎大学 SRF 第 9 回テーブルスピーチ(7 月 19 日)

会場:二松学舎大学九段キャンパス 1 号館 1103 会議室

二松学舎大学 SRF 第 10 回テーブルスピーチ(11 月 28 日)

会場:二松学舎大学九段キャンパス 1 号館 1103 会議室

<公開講座>

講座「近代の漢詩・漢文」5 月 18 日・6 月 15 日・7 月 20 日・9 月 28 日・11 月 16 日・12 月 14 日

講師:町泉寿郎教授・清水信子講師・川邊雄大講師

会場:二松学舎大学九段キャンパス 4 号館 4081 教室

■東アジア学術総合研究所

<シンポジウム>

東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト・SRF 共催シンポジウム(6 月 22 日・23 日)

21 世紀における『孟子』像の新展開

会場:二松学舎大学九段キャンパス4号館6階 4061教室
東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト公開シンポジウム(8月17日)
興福寺に鳴り響いた音楽 教訓抄の世界

会場:興福寺会館(奈良)

東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクトシンポジウム(1月8日)
越境する現代日本文化:東アジアにおけるコンテンツの受容

会場:二松学舎大学九段キャンパス1号館2階 202教室

<海外講座>

イタリア カ・フォスカリ大学 (2月6日~5月14日) 動画配信による講義

■陽明学研究センター

<シンポジウム>

二松学舎大学・浙江工商大学・浙江省倫理学会共催学術シンポジウム(11月3日)
第4回 陽明学と浙江文化—東アジアにおける陽明学

会場:浙江文華ホテル6階 流霞庁

■日本漢学研究センター

<公開講座>

演習講座

古文書解読講座、『古事談』の研究、『国語』の研究、論文撰述の方法と実践

前期4月8日~7月27日

後期9月13日~12月19日、1月9日~23日

<刊行物>

『レオン・ド・ロニーと19世紀欧州東洋学』(6月29日)

『日本漢文学の射程—その方法、達成と可能性』(7月25日)

『木下彪『国分青屋と明治大正昭和の漢詩界』』(近代日本漢学資料叢書4)(7月30日)

『大沼枕山・鶴林と永井荷風『下谷叢話』』(9月26日)

『雙松通説』Vol.25(10月10日発行)

『講座 近代日本と漢学』第1巻「漢学という視座」(12月10日)

『講座 近代日本と漢学』第2巻「漢学と漢学塾」(1月20日)

『講座 近代日本と漢学』第3巻「漢学と医学」(1月30日)

『川田 剛『甕江文稿』』(近代日本漢籍影印叢書2)(2月1日)

『講座 近代日本と漢学』第4巻「漢学と学芸」(2月28日)

『講座 近代日本と漢学』第5巻「漢学と教育」(2月28日)

『大原観山詩集 一子規の外祖父・藩校生の日々』(3月18日)

『伊豫松山藩儒 大原観山旧蔵本・古文書総覧』(3月18日)

『講座 近代日本と漢学』第6巻「漢学と近代文学」(3月31日)

『講座 近代日本と漢学』第7巻「漢学と日本語」(3月31日)

『講座 近代日本と漢学』第8巻「漢学と東アジア」(3月31日)

『東アジア学術総合研究所集刊』第50集記念号(3月31日)

『陽明学』第30号(3月31日)

『日本漢文学研究』第15号(3月31日)

『雙松通説』Vol.26(3月31日)

③教員免許状更新講習の実施

教育職員免許法の改正に基づき、平成21年度より教員免許更新制度が導入された。これに伴い、本学卒業生教員をはじめ多くの教員を対象に免許状更新講習を開設し、当年度は8月5日~9日の日程で、最新の教育事情と子どもの発達・生活、教育課程の改善と学校運営、現代における生徒育成上の課題、現代文・古典・書道の教材と指導法などを主な講習内容として実施した。

④入学前教育・初年次教育の実施

新入生のモチベーションを高め、教育効果をより確かなものとするため、文学部・国際政治経済学部両学部においてAO入試・推薦入試の合格者に対し「入学前教育」を、入学後の新入生に対し学部ごとの「初年次教育」の実施や講演会などを開催した。

国際政治経済学部では入学時のプレースメント・テスト、英語習熟度クラス分けテストを実施し、両学部ともに、出口のレベルアップを目指すべく、初年次から「キャリア教育」の授業を開講し、正課「キャリア教育」と「就職支援講座」との連携を図っている。

⑤シンポジウム・講演会・展示会等の開催

当年度もシンポジウムや各種講演会などを開催し、本学の教育研究成果を学外へ広くアピールすると共に学内の活性化を図っている。大学資料展示室では二松学舎関係者の軸・書簡や近現代作家の草稿類など文学界にとって貴重な資料を収集し、年間を通して各種企画展を開催している。また、資料センターでは、寄贈資料や寄託資料の受入れを行い、その調査・研究を公表し、成果を上げ始めている。

■大学資料展示室企画展等

○九段キャンパス

<展示>

特別展「創立者三島中洲没後100年」展(4月22日～6月8日)

「レオン・ド・ロニーと19世紀欧州の東洋学」展(6月27日～8月19日)

「大沼枕山・鶴林と永井荷風『下谷叢話』」展(9月26日～11月16日)

「近現代作家の署名本」展(11月25日～1月15日)

「作家・大西巨人―「全力的な精進」の軌跡」

(2月4日～3月14日)大学資料展示室

(2月21日～3月14日)東京古書会館会場:2階情報コーナー

●千代田区立千代田図書館との連携事業「書評キャンパス」

千代田区立千代田図書館内の展示ウォールにて「いまどきの大学生 解体新書」が開催され、本学学生8名の書評が3期にわたって展示された。

第1期(8月26日～9月21日)2名、第2期(9月23日～10月26日)3名、

第3期(10月28日～11月23日)3名

展示された8名の内、5名の学生の書評が、「週刊読書人」新聞に掲載された。

○柏キャンパス

<展示>

論語の世界(4月8日～5月31日)

レコードコレクションからたどる昭和歌謡(6月10日～7月31日)

三国志の世界(10月23日～11月30日)

こころの詩(うた):水木かおるの世界(12月16日～2月29日)

<講演会>(10月26日)

「いま「三国志」を読む／見る」文学部教授 伊藤晋太郎

会場:柏1号館205教室

●柏市立図書館と柏市内大学図書館連携事業 知的書評合戦 ビブリオバトル(11月3日)

2019年度より全国大学ビブリオバトル地区予選として実施 会場:ウェルネス柏

■二松学舎大学卒業神奈川教員の会(8月17日)

会場:九段1号館807教室 参加者:20人

■二松学舎大学卒業埼玉県・千葉県教員の会(8月20日)

会場:九段1号館802・807教室 参加者:32人

■二松学舎大学卒業茨城県教員の会 国語(古典)講習会・情報交換会(8月22日)

会場:ホテルビュー水戸 参加者:講習会81人、情報交換会26人

■二松学舎大学教育研究大会(10月20日)

講演:新学習指導要領におけるこれからの国語の授業と学習評価

横浜国立大学名誉教授 高木 展郎

分科会:「小学校 国語」、「中学校 国語」、「高等学校 国語」

会場:九段校舎1号館中洲記念講堂、401 教室、403 教室、507 教室 参加者:224 人

■国際政治経済学部シンポジウム(10月26日)

○基調講演:「市場と政策の代替・補完ー社会諸科学の融合と専門教育ー」

東アジア学術総合研究所特命教授・千葉大学名誉教授 野村 芳正

○講演1:「経済学の体系的・積上げ式カリキュラムの実践ー千葉大学特進コース(学部・修士5年一貫)の取り組みー」

千葉大学大学院社会科学研究院准教授 大鋸 崇

○講演2:「ポスト INF 条約時代のアジア太平洋地域の安全保障」

国際政治経済学部専任講師 合六 強

○招待講演:「政策形成に果たすべき社会科学としての行政学の役割」

千葉大学名誉教授 新藤 宗幸

○質疑応答及び統括的討議:「社会科学の学際的融合と専門教育に向けて」

■全国学生・生徒文芸コンクールの開催

入賞者発表:11月2日 表彰式:11月23日

漢詩部門

学生(大学生の部) 最優秀賞 該当なし 優秀賞 2件 佳作 3件 入選 4件

生徒(高校生・中学生の部) 最優秀賞 1件 優秀賞 2件 佳作 3件 入選 5件

書道部門

学生(大学生の部) 最優秀賞 1件 優秀賞 2件 佳作 3件 入選 5件

生徒(高校生の部) 最優秀賞 1件 優秀賞 2件 佳作 3件 入選 30件

生徒(中学生の部) 最優秀賞 1件 優秀賞 2件 佳作 3件 入選 30件

生徒(小学生の部) 最優秀賞 1件 優秀賞 2件 佳作 3件 入選 30件

小説 POP 部門 最優秀賞 1件 優秀賞 2件 佳作 3件 入選 15件

学内感想文部門 最優秀賞 1件 優秀賞 2件 佳作 3件 入選 5件

■ホームカミングデー(11月2日)

(1)公開講座

① 法的親子関係成立における血縁と意思 国際政治経済学部教授 土屋 茂

② リアル三国志をめぐる旅 文学部教授 伊藤晋太郎

③ 落語・講談と近世の話術論 文学部教授 中川 桂

(2)卒業生作品展 書・篆刻・写真・絵画等の展示(11月1日~2日)

(3)スタンプラリー、1年後の自分への手紙コーナー、漢学塾二松学舎模型展示、映像上映会など

■FD(ファカルティ・ディベロップメント)・SD(スタッフ・ディベロップメント)

大学職員力判定試験 基礎力向上コース(7月26日・27日)

大学職員サポートセンター

会場:アルカディア市ヶ谷(私学会館)4階「飛鳥」

五大学合同新人職員研修会

(和洋女子大学、芝浦工業大学、フェリス学院大学、千葉商科大学、二松学舎大学)

2030年、2040年の高等教育の課題 理事長 水戸 英則

先輩職員によるプレゼンテーション(4名)

テーマ「大学職員として培ったもの~後輩職員へのメッセージ」

新人職員による個人ワーク・グループワーク・発表

テーマ「明日から始める行動宣言」

会場:九段1号館 11階会議室

大妻女子大学とのSD協定に基づく合同事務職員研修会

働き方改革研修(グループ演習形式)(9月11日)

会場:大妻女子大学 参加者:37人

教育と経営に関する研修会(8月5日)

最近の高等教育関連各法改正・新法成立の背景と内容について 理事長 水戸 英則

全学的マネジメント体制構築による大学改革～椋山女学園大学の過去・未来～

椋山女学園大学 企画課長 藤田 修

会場:九段校舎507教室 参加者:124人(大学教員47人 事務職員77人)

管理職対象評価者研修

評価者研修 ～評価フィルター診断テストを利用して～

会場:九段1号館1103会議室 参加者:27人

係長以下対象研修会

実践に繋げる5S徹底研修

会場:九段1号館507教室 参加者:43人

⑥図書館の充実等

図書館では、利用者がレポートや論文を作成するにあたり、図書資料以外に電子書籍・電子ジャーナル・データベースなどの電子資料の充実を図っている。九段校舎図書館本館のほか、2号館にラーニング・コモンズを設置している。グループワークエリアや、豊富なPC機器を利用した情報検索エリア、多面プロジェクターや電子黒板が整備されたプレゼンテーションルームなどが配置され図書館とも行き来が可能となっており、利便性の高い学習環境を整備している。また、本学図書館では所蔵している貴重資料のデジタル化を進めており、これまでにデジタル化した『二十一代集』『土佐日記』などの和本や『周易本義通釋』『融堂書解』などの漢籍についてデジタル資料を公開している。

2019年度より、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用を開始した。

⑦大学の授業に関するアンケートの実施

大学の自己点検・評価活動の一環として、授業における学生の学習成果を教員が確認し授業の改善、学習の動機付け・習慣付け・学習意欲の向上の一助とするため、「学生による授業アンケート」を実施している。学生の授業に対する意識調査・分析により、サービス向上や大学全体の今後の教育改善に役立てる。

⑧学術研究支援等の充実

本学卒業生教員の教育実践支援、教職志望の学生への更なる支援と併せて教育実践に関する総合的な研究調査及び研修等を行うことで広く教育界に貢献することを目的に「教職課程センター」を設置している。同センターでは、本学の卒業教員とのネットワーク強化、教職に関する様々な情報収集と提供、教員採用試験合格講座の開講をはじめ、論作文の添削指導、模擬面接・個別進路相談などにより、教員志望学生の支援を実施している。また、東アジア学術総合研究所では、シンポジウムやワークショップの開催、共同研究プロジェクトの推進および研究成果報告書の刊行を支援している。

⑨地域連携

地域連携及び地域貢献活動の推進・強化を目的として、柏キャンパスに二松学舎大学地域連携室を設置している。当年度は、アクションプランの課題である地域連携、防災対策強化を推進するため、柏キャンパス近隣町会による柏キャンパス見学会を開催し、避難場所(大学グラウンド)・避難施設(大学体育館)の見学、避難ルート確認、防災施設・備蓄物資の説明などを行った。

10月20日 参加者:99人

■鎌倉市と二松学舎大学との包括的な連携に関する協定

教育・研究・文化の振興、まちづくり及び地域社会の活性化、人材の育成、地域の課題解決のための知的・人的及び物的資源の活用、地域社会の持続的な発展に寄与することなどを目的とし、広範な分野で連携・協力し「地域社会連携」を推進するため、包括連携協定を11月28日に締結した。

■柏・我孫子地区小学生対象勉強会

夏休みこども研究会(8月4日)

文学研究「令和が生まれた万葉集」「短歌を作ってみよう」 附属柏高等学校教諭 岡村 美里

中学生による短歌発表

芝田柏中学校・高等学校長、国語科教員による 短歌添削指導

経済研究「お金ってなんだろう?」「起業するということ」 国際政治経済学部専任講師 田場 弓子
中学生による「起業するということ」についてのアイデア発表

参加者:802名(文学研究 138人、経済研究 664人)

論語で学ぶ「英語の基礎力」「漢字の基礎力」(11月16日)

会場:柏キャンパス1号館501教室 参加者:小学4~6年生・中学生・保護者 225人

冬休み寺子屋道場 書き初め勉強会(1月6日)

会場:柏校舎304・305教室 参加者:柏市・我孫子市の小学生 53人

■東葛地域市民向け公開講座(6月18日)

「平成」から「令和」へー万葉集への誘いー 講師 文学部特別招聘教授 沖森 卓也

会場:アミュゼ柏クリスタルホール 受講者:81人

■柏市教育委員会との共催による教職員研修講座(8月9日)

百人一首と落語の関係 文学部教授 中川 桂

会場:柏キャンパス1号館205教室 受講者:柏市教職員 約40名

<刊行物>

「二松学舎大学附属図書館 季報」第105号~第107号 二松学舎大学附属図書館

「水木かおる記念文庫だより」第11号 二松学舎大学附属図書館

図録「作家・大西巨人ー「全力的な精進」の軌跡 大学資料展示室

「教職課程センターだより」第16号 二松学舎大学教職課程センター

「二松学舎大学国際政経論集」第26号 二松学舎大学国際政治経済学部

「二松学舎大学論集」第63号 二松学舎大学文学部

「二松学舎新聞」第78号~第80号 学校法人二松学舎

「學」第53号~第55号 学校法人二松学舎

「漱石アンドロイド」プロジェクト2019年度共同研究報告書 二松学舎大学・大阪大学・ATR

「国際交流」第42号 二松学舎大学国際交流センター

「二松」第34集 二松学舎大学大学院文学研究科

「二松詩文」第42巻第3号~第43巻第2号 二松詩文会

「人文論叢」第103輯・第104輯 二松学舎大学人文学会

「国際政経」第25号 二松学舎大学国際政経学会 等

(2)学生支援

①学生ポータルサービス・ポートフォリオシステム

本学では、学外から授業や学生生活に関する情報にアクセスが可能な学生ポータルサイトを開設している。「PROG テスト」の結果を Live Campus 上で把握できるなど、学生が自らの目標の達成度を確認し意欲的・継続的に学習に取り組むことができるよう、ポートフォリオシステムを構築している。当年度は、新たに保護者向けポータルサイトを設置し、保護者が学生の成績や出席状況を閲覧可能となった。

②奨学金制度

学生生徒の就学意欲の維持、退学者の減少や学生生徒募集のためにも、奨学金制度の更なる拡充が重要であり、給付および貸与奨学金制度を設けており、奨学生(給付・貸与)、特待生(中洲賞)、二松学舎サービス株式会社特待生、入試奨学生、外国人特別奨学生、郭火盛奨学生、外国人研究奨励生、松苓会奨学生等奨学生度を設置している。

③PROG テストの実施

当年度から「PROG テスト」(Progress Report On Generic skills)を導入し、学生の「大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向」、いわゆるジェネリックスキルがどの程度身に付いているかを客観的に測定し、自分の強みや弱みを知り、自己認知(メタ認知)を高める工夫も行っている。

④就職・進学支援等

キャリアセンターでは、4年間のキャリア教育プログラムを構築し、1年次から正課授業との連携およびキャリアカウンセラーによる相談の実施により学生のサポート・フォローを行っている。履歴書、ES作成や企業

訪問等就職活動全般にわたるガイドブック「キャリアガイド」を作成、3年次生全員に配付し、就職活動への支援ツールとして活用している。自己発見(職業適性)検査をはじめ、公務員試験対策講座の開講、合同企業説明会(創縁会)、企業研究セミナーや業界セミナー、インターンシップ研修、ニュース検定対策や「キャリアデザイン講座」「社長弟子入りプロジェクト」「サービス介助士講座」などの各種講座のほか、新たに自己理解強化のため自己分析講座、多様化する企業の採用方法情報収集として卒業生採用担当者研究交流会を実施した。

また、本学と地方自治体との間で、若者人材の育成・確保に向け、学生の UIJ ターン就職活動の支援について連携・協力を推進し、求人や事業活動の周知、学生向け説明会開催、インターンシップ支援等、地元就職・定着に係る連携強化を推進しており、当年度は岡山県と就職支援に関する協定書を、令和2年1月10日に締結した。

教職課程センターでは、国語科教員養成特別授業や採用試験対策、教育実習生に対する現職教員による特別講演会の実施、千葉県教育委員会による特別講座など教員採用試験合格者の増員を図るための各種事業を実施した。また、教育研究大会をはじめ OB 教員の教育実践等の支援や教育情報等の資料収集および広報誌「教育課程センターだより」の発行などを行った。

大学院への進学については、キャリアセンターや入試課、指導教員が連携し、入試情報や資料の提供をするとともに、進路に関する相談を行っている。また、専門学校等への進学については、キャリアセンターで資料の提供や相談を行っている。

更に、「基礎ゼミナール共通テキスト」を作成し、初年次教育である基礎ゼミの段階から、自らのライフデザイン、キャリアデザインを考える場を設けている。

⑤国際交流

短期海外語学研修を英国・ケンブリッジ大学(8月9日～9月3日)、カナダ・フレーザーバレー大学(8月11日から9月11日)で実施したほか、海外協定校への派遣留学生および海外協定校からの交換留学生に対する就学支援、留学相談および外国語試験に関する情報提供および説明会の開催、アキバラボを利用する外国人留学生と都市文化デザイン学科の学生との文化交流イベントを開催した。

日本語・日本学特別プログラムは開設3年目となり、日本語学科を有する中国浙江省の大学から1年間の交換留学生48人、秋 Semester 20人(鄭州大学)を受け入れ、本学柏校舎やアキバラボを有効利用して日本語能力や日本文化に関する知識の修得を目指すそれぞれのプログラムを実施した。

本学ではグローバル化に向けた取り組みとして、本学学生の海外留学機会を増やすため協定校拡充を図っており、新たな海外協定校として、フランスのボルドー・モンテーニュ大学、台湾の銘伝大学文藻外語大学欧亜語文学院(台湾)、中国の寧波工程学院、江西師範大学、浙江財経大学東方学院、河北民族師範学院、中原工学院、との交流協定を締結した。大学院文学研究科においては、中国の浙江工商大学との協定に基づくダブルディグリー制度を導入し、本学学生が留学を開始した。今後、各大学との交流協定に基づき、積極的に国際交流プログラムを推進していく。

⑥海外協定校への訪問等

協定校との関係をより堅固なものとするため、教職員の定期的な訪問を行っている。当年度は、5月31日に嘉興学院南湖学院より袁志明学院長、曹堅図書館長、李月順国際交流部副部長が、10月25日に台湾・中国文化大学より方献州、陳順益の両氏が教員交流および表敬訪問の目的で本学に来訪された。本学からは、江藤茂博学長、牧角悦子文学部長、王宝平国際交流センター長が6月13日～17日に中国・嘉興学院、寧波工程学院、浙江工商大学、江西師範学院等、9月8日～11日に河南大学および鄭州大学、10月29日～11月1日に寧波財経学院、寧波工程学院、寧波理工学院、嘉興学院、11月1日～4日に浙江工商大学、越秀外国語学院など、日本語特別プログラムの学生募集活動および協定見込み大学への訪問を行った。

⑦地区別父母懇談会

大学の現況、学習の状況、学生生活の状況、就職状況等についての説明や個別相談を行っている。当年度は、石川県金沢市、大阪府大阪市、福島県福島市、山形県山形市、静岡県静岡市、岡山県岡山市、山梨県甲府市、栃木県宇都宮市、東京都千代田区、(開催日程順)で開催した。

(3)広報・学生募集対策

大学の概要・学部の各専攻・キャリアサポート・教職支援等の紹介をホームページよりデジタルパンフレット、映像配信、DM、SNSによる情報発信などを行っている。少子化が進む中で、文学部・国際政治経済学部とも学生募集広報活動を見直し、学生募集広報戦略検討会議において、法人と大学とが一体となって広報戦略を検討し学部学科に係る広報はもとより、本学の知名度向上やブランディングを意識した広報を行った。また、本学公式キャラクターとして「ねこ松」を作成し、オープンキャンパス等で披露して来場者に好評を博しているほか、ねこ松のツイッターアカウントを作成し、情報発信を行っている。

多方面から入学者選抜実施方法(入試種別・科目・日程等)を検討し、地方会場および関東地区会場で大学説明会や入学試験を実施した。また、関東地区の志願者獲得の精度を上げるべく、東京、千葉、埼玉、神奈川、茨城の各地区別に学生募集特別委員を配置し学生募集対策の強化を図っている。さらに、本学卒業生教員との連携や地方からの志願者確保、オープンキャンパスや学校見学会の開催、一般入学試験のWeb出願で併願割引制度の導入、特待生制度・奨学金制度の拡充等により学生募集対策の強化を行った。

3. 附属高等学校

(1) アクションプランに基づく改革

アクションプランに基づき、①附属高等学校の「ビジョン」浸透 ②「人間(ひと)作り」・人格教育 ③愛校心の育成 ④国際化への対応 ⑤地域・社会との連携 ⑥教育の実践・充実等について検討し改革を推進している。

①新入生は入学後の宿泊オリエンテーションにて、建学の精神や校訓について理解を深める。また、毎月の校長講話において、建学の精神や校訓、人の生き方等に関する話をしている。

②『論語』教育による人格形成を行っているほか、毎週生活目標としての「週訓」を決め、自己指導力を高める意識をして学校生活を送っている。

③始業式や終業式での校歌斉唱、学校周辺のフィールドワーク、九段の歴史・文化を知るための「九段学」講座など母校への帰属意識を高める機会をもった。

④英語検定受験、オーストラリアへの海外語学研修、附属柏中高校と合同で実施している台湾語学研修、3ヶ月のターム留学(オーストラリア)などにより国際化への取り組みを行っている。

⑤九段坂・内堀通り・千鳥ヶ淵緑道等の通学路清掃ボランティア、九段2丁目町会の秋の祭り参加、本校周辺の歴史的建造物や国の施設等を体験学習するフィールドワークプログラムなどを行った。

⑥通常授業の他に本校教員による長期休業中の特別講習、予備校講師による特別講習「学び舎」、タブレット学習の導入、専任教員の研究授業の充実など授業力の向上を図った。

(2) 「集中体育」の実施

土曜日に学年ごとに「集中体育」を実施し、柏キャンパスの人工芝グラウンド、体育施設を利用した体育の授業を実施している。

(3) 教育学習環境の整備

短焦点プロジェクターの増設、理科用機器備品の購入、家庭科調理室の改修整備を実施したほか、柏野球場周辺施設の修理その他経年劣化による改修整備を実施した。また、生徒へのタブレット導入に加え、使用ソフトの拡充等により、ICT活用能力を高め、学習理解度や学習意欲の向上を図った。

(4) 広報・生徒募集対策

ホームページでの学校紹介、学校案内パンフレット及び学校紹介 DVD のほか、ほぼ毎日更新される公式ブログ「学舎の窓ー校長室だよりー」による部活動や学園祭、各種学校イベントの様子など、様々な情報を発信するなど詳細な情報発信を行っている。また、入学時特待生制度、Web 出願システムを活用したイベントの予約システムの導入、志願者増加および定着化のため中学・塾等訪問スタッフの配置や生徒・保護者対象説明会の拡充、中学校教員・塾対象の学校説明会の実施など効果的な広報活動により生徒募集対策を行った。

(5) スクールカウンセラーの配置

生徒の悩みや保護者の相談に対応するため、専門的知識を有するスクールカウンセラーを校内に配置し、教育相談や学園生活のサポートなどメンタルケアの充実を図っている。精神的に不安定に陥りやすい

高校生の時期を健やかに過ごせるよう、臨床心理士のカウンセラーが対応している。

(6) チューター制度の導入

進路指導の充実と生徒の進路意識の向上を目的に、チューター制度(課外活動講師)を継続して実施している。現役の大学生を講師に迎え、週5回、放課後に勉強の仕方や大学の様子など生徒の相談に応じるなど、教員とは一味違った形で進路に向け生徒をサポートしている。

(7) 学校評価委員会の開催

「学校評価」及び同校の経営・運営に資するため、有識者及び近隣地域住民より附属高等学校に対する意見を聴取し、学校評価委員会を開催した。

(8) 外部講師による補助講習の実施

生徒の学力および進学実績の向上と教育活動の活性化を図るため、通年(放課後)で特別講習「学舎(まなびや)」を設置し、3年生の特進・理系コース等を中心に、国語・数学・英語の受験対策講習を実施するとともに、1年生は1学期に中学教育補完講習、2年生は2学期から実力伸長講習を実施した。

(9) 校外学習等

- ・オリエンテーション:千葉県館山市(4月12日～13日)1年生
- ・歌舞伎教室:日本振袖始:国立劇場(7月11日)1年生
- ・芸術鑑賞(修学旅行事前指導):ミュージカルひめゆり(7月11日)2年生
- ・芸術鑑賞:ミュージカル キャッツ(4月12日)3年生
- ・語学研修:オーストラリア・クイーンズランド(8月15日～8月27日)参加21名 1・2年生
台湾(8月16日～22日)参加6名 1・2年生
- ・勉強合宿:千葉県野田瀬戸クリアビューホテル(8月21日～24日)1年生:38名・2年生:36名
- ・修学旅行:沖縄県(10月29日～11月1日)2年生
- ・雪国体験(スキー教室):長野県上田市菅平高原(1月23日～25日)1年生
- ・フィールドワーク:千代田区九段周辺(12月17日～19日)2年生
1年生(3月下旬は、臨時休校のため中止)
- ・特別授業、高大連携授業:(12月18日～19日)1年生
2年生(3月下旬は、臨時休校のため中止)
- ・英語合宿:千葉県野田市瀬戸クリアビューホテル(3月下旬は、臨時休校のため中止)

< 刊行物 >

- 「二松だより」第120号～第122号 附属高等学校二松だより編集委員会
- 『文芸二松』第35号 附属高等学校文芸二松編集委員会
- 『松螢』第64号 附属高等学校生徒会
- 『2019年度卒業記念文集』附属高等学校第70回卒業生

4. 附属柏中学校・高等学校

(1) 附属柏中学校・高等学校の改革

アクションプランに基づき、①附属柏中学校・高等学校の「ビジョン」浸透 ②「人間(ひと)作り」・人格教育 ③愛校心の育成 ④国際化への対応 ⑤地域との連携 ⑥教育の実践・充実等について検討し改革を推進している。

- ①「自問自答」をキーワードとし校訓である「仁愛・正義・誠実」と関連させて建学の精神について理解を深める。
- ②『論語』教育による人格形成のほか、中学校では「沼の教室」「都市の教室」「雪の教室」「古都の教室」「世界の教室」などの体験学習、高校ではオリエンテーション合宿や芸術鑑賞会、歌舞伎教室、海外研修などにより、「思考力」「判断力」「表現力」を養成し建学の理念の実現を目指す。
- ③卒業生の芥川賞受賞や、大学創立140周年記念事業の一環で制作した漱石アンドロイドによる授業の受講など国語の二松学舎を特に強く生徒にアピールした。また、高等学校創立50周年、中学校10周年の記念行事として、記念式典、池上彰氏による記念講演会等を実施し、愛校心の育成に取り組んだ。
- ④台湾の桃園市私立新興高級中学(高校)やオーストラリアのクイーンズランドハイスクールと相互交流をよ

り深めるため交流協定を締結し、短期語学研修を実施した。さらにカナダ、イギリスなどでの語学研修を中・高の学年やコースおよび希望者によって行った。

⑤中学校では、「沼の教室」により手賀沼周辺地域施設を活用し、「田んぼの教室」では高校同窓会と連携し、手賀沼のそばに田圃を借り、地域在住のOBの指導により田植え・稲刈りを実施した。

また、高校では福祉施設や幼稚園でのボランティア活動、駅前でのユニセフ募金活動、近隣地域の定期的な清掃活動を行った。その他、地域の祭礼等での部活動生徒(野球部・演劇部・サッカー部)によるボランティア活動も実施した。

⑥教員のアクティブ・ラーニング研修を実施した他、「アクティブ・ラーニング推進委員会」を中心としてアクティブ・ラーニングの更なる推進に取り組んだ。また、高校のグローバルコースにおいて英字新聞制作、英語プレゼンテーションを通じた英語力育成プログラムを実施した。設備面では、電子黒板やプロジェクターの設置など、教室等のIT環境を整備した。

(2)カリキュラムの充実

本学の建学の理念のもと、附属柏高等学校との中・高を通じた教育の充実と人材の養成するため、新カリキュラムにより教育体系の更なる充実を図っている。また、一人ひとりの学力を確かなものとするため中学校は、少人数教育と目標進路に合わせ個性を尊重した「グローバルコース」「特選コース」「選抜コース」を設置し、柏高校では、学力の向上と人間力の向上を目指し、目標実現に向けたコース別授業を実施している。

(3)教育・学習環境の整備

周年記念事業の一環として、各種改修整備工事を実施した。特に老朽化した中庭を舗装整備するとともにウッドデッキを設置、中庭に面した図書室はラーニング・コモンズとしてリニューアルした。この他、校舎内の塗装・補修工事等を行い、教育環境を整備した。

(4)広報・生徒募集対策

受験生向けの学校案内パンフレットのリニューアルやホームページでの学校紹介、保護者・受験生対象の学校見学会のほか SNS による情報発信、授業公開や体験授業を行っている。入試広報部を中心に、広報活動、中学・塾等訪問スタッフの配置など募集対策を実施した。

新入生全員がタブレットPCを持ち、自問自答、アクティブ・ラーニング、グローバル人材育成の推進等により、中学校ではハイレベルのグローバルコースへのチャレンジ層が増え、入学者が増加した。

千葉県の臨時定員増は当初 2017(平成 29)年度までの計画であったが、本校の位置する第三学区(柏市・野田市・流山市・我孫子市・鎌ヶ谷市)は、中学校卒業生が引き続き増加する見通しで、2025(令和 7)年度まで「期限付臨時定員増」を継続することとなり、これに対応すべく定員の変更申請を行い、同年度まで臨時定員増(定員 249→280 名)が認可された。

(5)生徒支援

入学から卒業までの生徒支援を行うため、父母の会や同窓会との連携を強化し、意見を聴取して学校運営に反映させている。また、生徒の悩みや保護者の相談に対応するため、専門的知識を有するスクールカウンセラーを校内に配置し、教育相談や学園生活のサポートなどメンタルケアを行っている。さらに、ベネッセが提供する生徒の学力と学習習慣をチェックする「スタディーサポート」や模試のデータなどを活用して学習指導や進路指導を行なうプログラムである「ファインシステム」を使った担任の面談を増やし、タブレットで情報を共有するなどして効果を上げている。

(6)授業評価等アンケートの実施

自己点検・評価活動の一環として、また、学校を取り巻く環境の変化に対する組織的な取り組みとして、生徒による授業評価アンケート、中学全学年と保護者、高校は卒業生と保護者の満足度調査を実施し、それに基づく教育の改善を図っている。

(7)地域・社会との連携

地域貢献として、ネイティブによる小学生対象の英語教室をひと月に 2 回実施した。また、大学と連携し、教育委員会の後援を得て実施した「夏休み子ども研究会(漢字の成り立ち等)」や「英語の基礎力」「漢字の基礎力」といった小中学生向けの講座も好評であった。施設面では、OB と大学生が連携した夏休み小学生向け作文教室や書道教室などへの教室貸し出し、また、体育館は柏市の避難・給水施設となっており、地域の避難訓練や集会などに参加し、連携を深めている。

(8) 両附属高校間の連携強化

両校の管理職、部長、主任、若手教員による研修会・懇談会を定期的実施することとしている。また、両校間での教員人事交流制度を整備している。教育プログラムとしては海外語学研修の共同企画、大学への内部推薦試験の実施があり、文化祭では生徒会や吹奏楽部の相互訪問などを行っている。施設面では柏キャンパスの人工芝グラウンド、体育館の相互利用(附属高校集中体育など)があり、さらに連携強化を図る。

(9) 校外学習等

- ・沼の教室:「北千葉導水ビジターセンター」千葉県柏市(6月6日)
「鳥の博物館」千葉県我孫子市(6月6日) 中学1年生、高校1年生
- ・都市の教室:「TGG 英語村」東京都江東区(6月6日) 中学3年生
「東京国立博物館」東京都台東区、「本所防災館」東京都墨田区(6月6日) 中学2年生
「日本科学未来館」「パナソニックセンター東京」東京都江東区(11月14日) 中学1年生
- ・校外オリエンテーション:千葉県九十九里(4月18日～20日) 高校1年生
- ・手賀沼クリーンウォーク(緑道清掃活動)(4月13日) 中学1年生
- ・田んぼの教室:千葉県柏市(5月11日田植え～9月13日稲刈り) 中学1年生
- ・歌舞伎教室:国立劇場(6月6日) 高校2年生
- ・JICA地球ひろば訪問:東京都新宿区(7月13日) 中学グローバルコース
- ・芸術鑑賞:キャッツ 四季劇場(11月9日) 高校1年生
- ・修学旅行:台湾(11月5日～9日) 高校2年生
シンガポール・マレーシア(11月13日～17日) 中学3年生
- ・海外研修:カナダ バンクーバー(7月7日～17日) 中学3年生グローバルコース
オーストラリア クイーンズランド(8月16日～28日) 中学・高校
台湾(8月16日～22日) 高校1・3年生
- ・サマーセミナー:東京都中央区晴海(7月25日～28日) 高校2年生
- ・古都の教室:京都府・奈良県(11月13日～16日) 中学2年生
- ・雪の教室(スキー教室):福島県会津高原(2月12日～15日) 中学1年生

< 刊行物 >

- 「双松」第47号 附属柏高等学校双松編集委員会
- 「修己治人」第11号 附属柏中学校・高等学校
- 研究論文集「自問自答」第5号 附属柏中学校
- 「双松だより」第93号～第96号 附属柏中学校・高等学校父母の会

Ⅲ. 財務の概要

1. 施設設備の整備

大学では九段校舎1号館2階・4階トイレ改修工事、教室電子黒板の入替え、ラーニング・コモンズ貸出用タブレット端末の新規導入、柏校舎1号館屋内消火栓ポンプユニット交換、5号館(大学資料センター)の空調工事、グラウンドの改修整備、駐車場舗装工事などを実施した。附属高校では調理室の改修整備、受変電設備(地中線用高圧中負荷開閉器)の改修、学籍管理システムのリプレース等を実施し、附属柏中学・高校では西校舎図書室(ラーニングコモンズ)及びエントランスの改修整備、中庭のブロック舗装工事、東校舎の補修工事などの環境整備等を行った。

2. 財務改革の推進

(1) 奨学金制度の充実と第3号基本金の増額

大学・附属高校・附属柏高校・附属柏中学校の学校別に奨学金制度を設けている。奨学金制度の充実のため、当年度奨学基金として受け入れた寄付金は第3号基本金に組み入れ、奨学基金を毎年度増額することとしている。当年度は、経済的困窮学生に対する奨学金、東日本大震災並びに福島第一原子力発

電所事故に伴う被災特別奨学生に対する学納金の減免、留学生への研究奨励金、交換留学生に対する武永尚子奨学金の給付、奨学生入試、中洲賞・特待生への奨学金給付を実施した。

(2) 恒常的な募金活動

本法人では二松学舎教育研究振興資金の募金活動を恒常的に行っている。当年度は約 7 千 400 万円のご寄付をいただき、前年度からの繰越金と合わせて校舎整備、被災学生および経済的困窮学生への支援金(授業料等の減免)の一部として活用し、また、奨学金の基金として第3号基本金に組み入れたほか、残りの資金は翌年度に繰り越すこととした。

(3) 事業会社の事業展開

本法人出資の事業会社である二松学舎サービス(株)は本法人の業務の効率化や経費削減等に寄与している。設立 14 年目を迎え順調に事業を展開しており、同社からは 2,700 万円の寄付があった。

(4) 格付けの取得

格付機関(株)格付投資情報センター(R&I社))による法人の発行体格付評価を受け、当年度も引き続き「A-」(シングルAマイナス)の格付けを維持した。

(5) 資金の効率的運用

資金の運用に当たっては、資金運用規程及びリスク管理体制に基づき慎重な運用を行い、運用収入を確保した。

3. 資金収支計算書(別紙1)

4. 活動区分資金収支計算書(別紙2)

5. 事業活動収支計算書(別紙3)

6. 貸借対照表(別紙4)

7. 財産目録(別紙5)

8. 主な財務比率(別紙6)

資金収支計算書

平成31年4月1日から
令和2年3月31日まで

(単位:円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	4,383,337,000	4,380,514,775	2,822,225
手数料収入	153,988,000	157,288,550	△ 3,300,550
寄付金収入	133,116,000	123,796,433	9,319,567
補助金収入	978,586,000	993,929,556	△ 15,343,556
国庫補助金収入	263,239,000	277,887,000	△ 14,648,000
地方公共団体補助金収入	715,347,000	716,042,556	△ 695,556
資産売却収入	1,025,354,000	827,084,204	198,269,796
付随事業・収益事業収入	19,983,000	20,226,794	△ 243,794
受取利息・配当金収入	224,544,000	230,708,210	△ 6,164,210
雑収入	241,462,000	272,238,544	△ 30,776,544
借入金等収入	1,000,000	1,750,000	△ 750,000
前受金収入	512,705,000	971,819,174	△ 459,114,174
その他の収入	587,068,000	617,323,580	△ 30,255,580
資金収入調整勘定	△ 941,864,000	△ 973,665,460	31,801,460
前年度繰越支払資金	2,992,754,000	2,992,753,913	87
収入の部合計	10,312,033,000	10,615,768,273	△ 303,735,273
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,105,013,000	3,145,746,511	△ 40,733,511
教育研究経費支出	1,389,523,000	1,372,037,285	17,485,715
管理経費支出	519,569,000	466,592,582	52,976,418
借入金等利息支出	15,073,000	15,072,599	401
借入金等返済支出	362,000,000	362,000,000	0
施設関係支出	122,035,000	103,376,401	18,658,599
設備関係支出	108,973,000	124,147,896	△ 15,174,896
資産運用支出	1,521,439,000	1,566,213,734	△ 44,774,734
その他の支出	528,393,000	511,426,686	16,966,314
予備費	(0)		0
資金支出調整勘定	△ 171,896,000	△ 171,007,836	△ 888,164
翌年度繰越支払資金	2,811,911,000	3,120,162,415	△ 308,251,415
支出の部合計	10,312,033,000	10,615,768,273	△ 303,735,273

活動区分資金収支計算書

平成31年4月1日から
令和2年3月31日まで

(単位：円)

		科 目	金 額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	4,380,514,775
		手数料収入	157,288,550
		特別寄付金収入	57,903,138
		経常費等補助金収入	989,826,556
		付随事業収入	11,226,794
		雑収入	272,238,544
		教育活動資金収入計	5,868,998,357
		支出	人件費支出
	教育研究経費支出		1,372,037,285
	管理経費支出		446,762,828
	教育活動資金支出計		4,964,546,624
	差引		904,451,733
	調整勘定等		△ 55,732,226
	教育活動資金収支差額		848,719,507
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	65,893,295
		施設設備補助金収入	4,103,000
		施設設備等活動資金収入計	69,996,295
	支出	施設関係支出	103,376,401
		設備関係支出	124,147,896
		施設設備等活動資金支出計	227,524,297
	差引		△ 157,528,002
	調整勘定等		△ 24,072,937
	施設整備等活動資金収支差額		△ 181,600,939
	小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		667,118,568
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	1,750,000
		有価証券売却収入	827,084,204
		特定資産取崩収入	316,365,490
		上記以外の収入	40,248,117
		小計	1,185,447,811
		受取利息・配当金収入	230,708,210
		上記以外の収入	9,000,000
		その他の活動資金収入計	1,425,156,021
		支出	借入金等返済支出
	有価証券購入支出		1,279,270,467
	特定資産繰入支出		286,943,267
	上記以外の支出		1,750,000
	小計		1,929,963,734
	借入金等利息支出		15,072,599
	上記以外の支出		19,829,754
	その他の活動資金支出計		1,964,866,087
	差引		△ 539,710,066
調整勘定等		0	
その他の活動資金収支差額		△ 539,710,066	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		127,408,502	
前年度繰越支払資金		2,992,753,913	
翌年度繰越支払資金		3,120,162,415	

事業活動収支計算書

平成31年4月1日から
令和2年3月31日まで

(単位:円)

		科目	予算	決算	差異
教育活動収支	事業活動収入	学生生徒等納付金	4,383,337,000	4,380,514,775	2,822,225
		手数料	153,988,000	157,288,550	△ 3,300,550
		寄付金	55,704,000	57,903,138	△ 2,199,138
		経常費等補助金	974,062,000	989,826,556	△ 15,764,556
		付随事業収入	10,983,000	11,226,794	△ 243,794
		雑収入	241,239,000	272,736,544	△ 31,497,544
		教育活動収入計	5,819,313,000	5,869,496,357	△ 50,183,357
	事業活動支出	科目	予算	決算	差異
		人件費	3,069,463,000	3,104,904,512	△ 35,441,512
		教育研究経費	1,957,274,000	1,934,882,684	22,391,316
		管理経費	523,490,000	470,235,804	53,254,196
		徴収不能額等	7,421,000	6,352,000	1,069,000
		教育活動支出計	5,557,648,000	5,516,375,000	41,273,000
	教育活動収支差額		261,665,000	353,121,357	△ 91,456,357
教育活動外収支	収入	科目	予算	決算	差異
		受取利息・配当金	224,544,000	230,708,210	△ 6,164,210
		その他の教育活動外収入	9,000,000	9,000,000	0
		教育活動外収入計	233,544,000	239,708,210	△ 6,164,210
	支出	科目	予算	決算	差異
		借入金等利息	15,073,000	15,072,599	401
		その他の教育活動外支出	992,000	1,176,703	△ 184,703
教育活動外支出計	16,065,000	16,249,302	△ 184,302		
教育活動外収支差額		217,479,000	223,458,908	△ 5,979,908	
経常収支差額		479,144,000	576,580,265	△ 97,436,265	
特別収支	収入	科目	予算	決算	差異
		資産売却差額	78,815,000	78,814,664	336
		その他の特別収入	92,721,000	86,606,428	6,114,572
	特別収入計	171,536,000	165,421,092	6,114,908	
	支出	科目	予算	決算	差異
		資産処分差額	363,624,000	373,361,752	△ 9,737,752
		その他の特別支出	18,700,000	18,653,051	46,949
特別支出計		382,324,000	392,014,803	△ 9,690,803	
特別収支差額		△ 210,788,000	△ 226,593,711	15,805,711	
[予備費]		(0)		0	
基本金組入前当年度収支差額		268,356,000	349,986,554	△ 81,630,554	
基本金組入額合計		△ 582,042,000	△ 528,762,018	△ 53,279,982	
当年度収支差額		△ 313,686,000	△ 178,775,464	△ 134,910,536	
前年度繰越収支差額		△ 2,833,063,000	△ 2,833,063,143	143	
翌年度繰越収支差額		△ 3,146,749,000	△ 3,011,838,607	△ 134,910,393	
(参考)					
事業活動収入計		6,224,393,000	6,274,625,659	△ 50,232,659	
事業活動支出計		5,956,037,000	5,924,639,105	31,397,895	

貸借対照表

令和2年3月31日

(単位:円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	22,888,429,689	23,316,868,863	△ 428,439,174
有形固定資産	18,072,790,103	18,436,172,909	△ 363,382,806
土地	6,170,752,610	6,170,752,610	0
建物	9,156,424,131	9,522,789,909	△ 366,365,778
図書	2,173,914,948	2,159,784,787	14,130,161
その他の有形固定資産	571,698,414	582,845,603	△ 11,147,189
特定資産	1,546,846,501	1,576,268,724	△ 29,422,223
第3号基本金引当資産	483,000,000	470,000,000	13,000,000
退職給与引当特定資産	935,438,124	976,280,123	△ 40,841,999
その他の特定資産	128,408,377	129,988,601	△ 1,580,224
その他の固定資産	3,268,793,085	3,304,427,230	△ 35,634,145
有価証券	3,044,945,181	3,076,996,770	△ 32,051,589
その他	223,847,904	227,430,460	△ 3,582,556
流動資産	6,592,223,066	6,311,769,542	280,453,524
現金預金	3,120,162,415	2,992,753,913	127,408,502
有価証券	3,243,289,665	3,029,878,085	213,411,580
その他の流動資産	228,770,986	289,137,544	△ 60,366,558
資産の部合計	29,480,652,755	29,628,638,405	△ 147,985,650
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	2,314,625,257	2,730,430,338	△ 415,805,081
長期借入金	1,285,500,000	1,646,000,000	△ 360,500,000
退職給与引当金	935,438,124	976,280,123	△ 40,841,999
長期未払金	93,687,133	108,150,215	△ 14,463,082
流動負債	1,840,694,233	1,922,861,356	△ 82,167,123
短期借入金	362,250,000	362,000,000	250,000
未払金	164,003,888	489,346,923	△ 325,343,035
前受金	971,819,174	765,490,628	206,328,546
預り金	342,621,171	306,023,805	36,597,366
負債の部合計	4,155,319,490	4,653,291,694	△ 497,972,204
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	28,337,171,872	27,808,409,854	528,762,018
第1号基本金	27,487,171,872	26,971,409,854	515,762,018
第3号基本金	483,000,000	470,000,000	13,000,000
第4号基本金	367,000,000	367,000,000	0
繰越収支差額	△ 3,011,838,607	△ 2,833,064,143	△ 178,774,464
翌年度繰越収支差額	△ 3,011,838,607	△ 2,833,064,143	△ 178,774,464
純資産の部合計	25,325,333,265	24,975,345,711	349,987,554
負債及び純資産の部合計	29,480,652,755	29,628,637,405	△ 147,984,650

財産目録

令和2年3月31日

I 資産総額	29,480,652,755 円
内 基本財産	18,087,874,718 円
運用財産	11,392,778,037 円
II 負債総額	4,155,319,490 円
III 正味財産	25,325,333,265 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	125,511.77 m ² 6,170,752,610 円
建物	59,056.12 m ² 9,156,424,131 円
構築物	192 件 200,044,790 円
図書	407,830 冊 2,173,914,948 円
教具・校具・備品	22,502 点 370,553,621 円
その他	16,184,618 円
2 運用財産	
現金預金	3,233,362,415 円
特定資産	1,546,846,501 円
有価証券	6,288,234,846 円
未収入金	201,822,832 円
貸付金	4,750,000 円
差入保証金	35,066,640 円
収益事業元入金	55,268,095 円
前払金	23,698,643 円
その他	3,728,065 円
資産総額	29,480,652,755 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	1,285,500,000 円
退職給与引当金	935,438,124 円
長期未払金	93,687,133 円
2 流動負債	
短期借入金	362,250,000 円
前受金	971,819,174 円
未払金	164,003,888 円
預り金	342,621,171 円
負債総額	4,155,319,490 円
正味財産(資産総額－負債総額)	25,325,333,265 円

財務比率

1. 貸借対照表関係比率

(%)

財務比率	学校法人二松学舎			全国平均 平成30年度
	計算式(×100)		令和元年度	
	平成30年度	令和元年度	平成30年度	
固定資産構成比率				
固定資産 総資産	78.7	77.6	86.8	
有形固定資産構成比率				
有形固定資産 総資産	62.2	61.3	59.9	
特定資産構成比率				
特定資産 総資産	5.3	5.2	22.2	
流動資産構成比率				
流動資産 総資産	21.3	22.4	13.2	
固定負債構成比率				
固定負債 総負債＋純資産	9.2	7.9	6.8	
流動負債構成比率				
流動負債 総負債＋純資産	6.5	6.2	5.4	
内部留保資産比率				
運用資産－総負債 総資産	20.7	23.5	25.7	
運用資産余裕比率				
運用資産－外部負債 経常支出	1.4	1.6	1.9	
純資産構成比率				
純資産 総負債＋純資産	84.3	85.9	87.8	
繰越収支差額構成比率				
繰越収支差額 総負債＋純資産	-9.6	-10.2	-14.5	
固定比率				
固定資産 純資産	93.4	90.4	98.8	
固定長期適合率				
固定資産 純資産＋固定負債	84.2	82.8	91.7	
流動比率				
流動資産 流動負債	328.2	358.1	246.6	
総負債比率				
総負債 総資産	15.7	14.1	12.2	
負債比率				
総負債 純資産	15.7	16.4	13.9	
前受金保有率				
現金預金 前受金	391.0	321.1	348.7	
退職給与引当特定資産保有率				
退職給与引当特定資産 退職給与引当金	100.0	100.0	71.2	
基本金比率				
基本金 基本金要組入額	93.1	94.3	97.3	
減価償却比率				
減価償却累計額(図書を除く) 減価償却資産取得額(図書を除く)	51.1	53.3	51.5	
積立率				
運用資産 要積立額	89.8	88.2	79.3	

2. 事業活動収支計算表関係比率

(%)

財務比率	学校法人二松学舎			全国平均 平成30年度
	計算式(×100)		令和元年度	
	平成30年度	令和元年度	平成30年度	
人件費比率				
人件費 経常収入	51.3	50.8	53.0	
人件費依存率				
人件費 学生生徒等納付金	72.1	70.9	70.9	
教育研究経費比率				
教育研究経費 経常収入	32.3	31.7	33.4	
管理経費比率				
管理経費 経常収入	8.1	7.7	8.8	
借入金等利息比率				
借入金等利息 経常収入	0.3	0.2	0.2	
事業活動収支差額比率				
基本金組入前当年度収支差額 事業活動収入	8.8	5.6	4.6	
基本金組入後収支比率				
事業活動支出 事業活動収入－基本金組入額	97.8	103.1	107.0	
学生生徒等納付金比率				
学生生徒等納付金 経常収入	71.3	71.7	74.8	
寄付金比率				
寄付金 事業活動収入	2.0	2.2	2.1	
経常寄付金比率				
教育活動収支の寄付金 経常収入	1.7	0.9	1.4	
補助金比率				
補助金 事業活動収入	16.1	15.8	12.6	
経常補助金比率				
教育活動収支の補助金 経常収入	15.9	16.2	12.2	
基本金組入率				
基本金組入額 事業活動収入	6.7	8.4	10.8	
減価償却額比率				
減価償却額 経常支出	11.3	10.6	11.8	
経常収支差額比率				
経常収支差額 経常支出	7.8	9.4	4.5	
教育活動収支差額比率				
教育活動収支差額 教育活動収入	4.6	6.0	3.0	

3. 活動区分資金収支計算書関係比率

(%)

財務比率	学校法人二松学舎			全国平均 平成30年度
	計算式(×100)		令和元年度	
	平成30年度	令和元年度	平成30年度	
教育活動資金収支差額比率				
教育活動資金収支差額 教育活動資金収入計	12.4	14.5	14.6	

注) 「全国平均」は日本私立学校振興・共済事業団の集計による医歯系を除く507大学法人の平均を示す。

監査報告書

令和 2 年 5 月 18 日

学校法人 二松学舎

理事会 御中

評議員会 御中

学校法人 二松学舎

監事 橋本 泰久 

監事 根本 義尚 

私たちは、学校法人二松学舎の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて、学校法人二松学舎の令和元年度（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）における計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表並びに附属明細表）及び学校法人の業務執行状況について監査を行いました。

監査の結果、私たちは上記の計算書類は学校法人会計基準（文部科学省令第15号、平成25年4月22日公布）に準拠しており、学校法人二松学舎の令和2年3月31日現在の財産状態及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めました。また、学校法人の業務執行状況に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する事実のないことを確認いたしました。

以上

